

外部評価の結果

<p>講評</p> <p>全体を通して(特に良いと思われる点など)</p> <p>「和」を大切に、グループホームを運営していこうと、平成17年7月に最初のユニットを設立した。人と人の「和」を大切に明るいホームづくり。地域との「和」を大切に親しまれるホームづくり。ホームを「和」の雰囲気づくり。</p> <p>人と人の和は、利用者同士、利用者職員、利用者家族と職員という関係づくりであるが、その基本はお互いの気持ちと思い、即ち心の交流であり、お互いの人間として尊厳を尊重することである。お互いの立場を敬愛の目で認め合い、且つ自分の思いが実現できる生活ができていることが望ましいと思うが、このグループホームは利用者も職員もその目標に向かって、設立間近いけれど管理者を筆頭に頑張っている様子には好感が持てる。</p> <p>利用者も自分の能力を発揮し、得意とすることに積極的に参加しようとする意欲も持っている。皆楽しんで自由な時間を過ごしているようである。この雰囲気をどんどん伸ばしてあげて欲しい。</p> <p>地域との和は、近くに芳野町の福祉関係が集まっているゾーンがあって、その病院や保育園との交流もしている。設立した翌月から「福福通信」を創刊して、グループホームの生活の様子や職員の紹介、行事の予定と結果、メッセージ等を写真入りカラーで毎月発行して、家族を始め近隣の家には利用者と職員が一軒一軒配っている。素晴らしいことである。</p> <p>ホームの和は、和紙を透した柔らかい光や木の暖か味と和気あいあいの雰囲気だろう。このユニットの経験を生かして12月に2つ目のユニットを開き順調に成果をあげている。</p> <p>特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした</p> <p>開設したばかりであり、利用者の病状の変化が進んでいくので難問や課題はこれから色々と出現してくるだろうが、現在の方針や目標を一步一步進めてもらいたい。</p> <p>グループホームが9人の利用者で生活の場をつくっているという原点をよく考えて頂きたい。「一人ひとりがゆったりとした自由な生活をする」と「9人が一緒に生活する」という個人生活と共同生活をどう調和させて、それぞれの利用者の生き甲斐をつつてあげるか、そのケアをどうすれば良いかである。まだ元気な人が多いので、まだ全面的介助までには先のことであるが、精神的な面、身体上の面の機能維持又は低下防止をどのようにしていくか、中長期的な予防の計画を作って実行してもらいたい。(介護計画やアセスメント等にも関係する)</p>

事業所名	グループホーム 福福
日付	平成18年3月31日
	特定非営利活動法人
評価機関名	ライフサポート
評価調査員	在宅介護経験15年
評価調査員	老人保健施設相談員、介護支援専門員 厚生労働省認知症介護指導員
自主評価結果を見る	(まだリンク先はありません)
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か</p> <p>グループホームの生活の重点は、「和、役割、自由」のキーワードで表現出来そうである。この言葉3つの連帯、連携が、利用者に対するサービスにつながり、利用者自身がここでの生活をつくる根幹になるだろうと推察する。</p> <p>これは、出来る限り本人の話をしっかり聴く努力をして、1日が終わる時に「今日も楽しめた」と実感できる生活を目指している。職員の関わりは優しさが感じられ、共同生活の中で定着している様子が分かった。</p> <p>代表者は、日常の運営については管理者に任せており、管理者と職員の努力に対し暖かい目で支援している。</p>		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か</p> <p>ゆったりとした広い空間を形成する和風洋式スタイルの建物が2棟並んで建っている。玄関には広い上家があり、ここのベンチで煙草を吸ったり、お茶を飲む事もできる。リビングルームは2つの空間があり、1つは天井のある食堂部分、もう1つは木組の梁がむき出しの広い空間で座を中心とした寛ぎの間である。リビングルームの周辺に居室があり、各部屋には花と字の木彫りの表札がある。居室の中には、家族の写真や孫の写真等が貼ってあり、家で生活していた時の古い年代物の家具が持ち込まれ、その人らしさを表現している。</p>		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か</p> <p>「家族の人がここで世話になって良かった。利用者の顔でその良さが分かるようになってくれるようにしたい」と管理者は言う。「生活の流れはこだわらない。利用者の仕事をしてきた事や得意な事をしてもらい、皆の役に立っているという喜びを感じてもらいたいです」と続ける。利用者の皆さんと話したり、行動を見ていると、その言葉の意味が良く理解出来る。</p> <p>食事は時間のかかる人にも、時間をしっかりかけて食べてもらっている。在宅時、犬を飼っていた人は、その愛犬を連れて入所し、犬小屋も外に置いてもらっている。外には、広い農園があり、青々とした野菜がいっぱい育っており、食材の収穫にその都度利用者が通っている。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。</p> <p>代表者の一家と管理者・職員が一体となって、グループホームの様々な問題や課題に取り組み、活発な議論をして、ケアの質とサービスの向上に努力している。設立して9ヶ月余りの経過した中で、利用者同士の和が保たれ、楽しい生活が2つのユニットで始まっている。これは管理者と計画作成担当者・職員が一体となって努力している結果だと思う。設立早々から「福福通信」を発行して、家族や地域との交流が深められ、諸計画や記録の様式を定めるなど管理者の優れた企画・計画もあって、職員をまとめ、「和」に叶ったグループホームが育っている事を実感した。近い将来の地域に密着した介護拠点への発展を期待する。</p>		